

# 年頭所感

会長 長瀬 清



北海道医師会会員の皆様には、ご家族ともども平成29年の新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は近年の気象の著しい変化が一層強く感じられた年でした。観測史上初めてという多数の大型台風が北海道に上陸により、農作物や交通機関への被害が多発、その傷跡が未だ癒えておりません。また、熊本、鳥取の大地震、相変わらずの東北地方の地震に加え北海道でも地震が発生しており南海トラフ地震の発生が現実味を帯びています。

世界に目をやりますと、ISとの戦いが続いており、一般市民、特に多くの子どもたちに犠牲者が出ており悲惨です。英国のEUからの離脱や米国の予想だにできなかった、クリントン氏を破っての泡沫候補と目されていたトランプ氏の次期大統領選出、韓国パク・クネ大統領の弾劾等世界の政治経済の混乱状態が続いています。ヨーロッパ各国は昨年末から本年にかけて大統領や、首相の選挙が行われ、指導者の多くが変わりそうな情勢です。ポピュリズム、右傾化の流れが顕著になり、これまでのグローバリゼーションは勢いをそがれています。その様な中で日本の今後の方向づけをどうするか気になるところです。トランプ氏はTPPからの撤退を示唆していますが、TiSA(新サービス貿易協定)等もあり、医療、保険業界が強く日本の医療に食い込んでくるでしょうから、静観してはいただけません。日本経済は、アベノミクスの成果が上がらず苦戦しています。経済の先行き不透明で、世界に誇る医療制度の持続、発展に黄信号が灯っています。救世主の出現が待たれます。消費税を頼りにしている社会保障も経済の思ったほどの回復がみられず、当初予定していた10%への引き上げが延長されたこともあり、補足財源の捻出が問題です。2025年には団塊の世代がすべて後期高齢者入りをし、超高齢社会を迎えます。日本の社会の仕組みをどうするか、社会保障制度の持続が岐路に立たされています。医療、医学の大発展が寿命の延長に貢献してきましたが、それを支える経済基盤が揺らいでいます。国債増発で1,000兆円を超えた借金ばかりが肥大し、後世の社会に重荷になるでしょう。医療提供体制を地域の状況にあわせ構築すべく、将来の医療の必要量を見据え、地域の関係者総出で地域医療構想調整会議を開き地域医療構想を策定しました。病院は生き残りを図り頭を抱えています。地域地域の事情もあり容易ではありません。

昨年春の診療報酬も、本体のマイナスは回避されましたが全体としてマイナスであり、薬価引き下げ分の医療費への振り替えがなされず、苦戦続きです。次回改定は平成30年で医療と介護の同時改定になります。削減ありきの改定にされないように願っています。

総医療費をみますと医療技術の進歩による医療費割合が増していますが、なかでも薬剤費の占める割合が急速に伸びています。オプジーボに代表される新薬の開発には目覚ましいものがあります。医療制度の維持発展に影響が及びかねず、慎重な対応が必要です。

今年4月から開始予定であった新専門医制度が、全国各地から地域医療へのマイナス改定影響を危惧する声が高まり、専門医機構のガバナンスの悪さも指摘され、専門医機構の立て直しと専門医制度開始の1年延期が決定されました。心づもりをしていた研修医の方々は、はしごをはずされ途方に暮れたことと思います。しっかりと制度作りをすべきです。心配された医療事故調査制度は、思ったほどの混乱もなく一年を経過しました。当初の目論見通りであるか、十分に検証の上、より実のある制度に育てなければなりません。

医師不足が強く叫ばれ、医師養成数を増加させました。やっと卒業期を迎えてこれから急速に医師数増加に向かうこととなります。

大都市圏を除いて、極めて医師不足に悩まされている地域が多く、充足感を感じずるまでにはまだ時間を要するでしょう。北海道医師会としては、できるかぎり医師の働く環境の整備を図るよう働きかけ、また、急速に増加する女性医師のキャリアを継続し続けることができる環境作りに努力しています。そのためには医師会会員皆様のご支援・ご協力が必要です。よろしくお願い申し上げます。

日本医師会横倉義武会長は2017～18年にかけて、世界医師会会長を務めることになりました。併せて本年CMAAO(アジア大洋州医師会連合)の会長として東京で総会を開催します。世界に日本の医療の素晴らしさを十分に知ってもらおう良い機会と言えます。昨年もノーベル医学・生理学賞が日本人に与えられました。学問的にも日本医学の質の高さが世界に示されました。喜ばしい事です。

最後に、会員皆様のご活躍を祈念申し上げます。